

## 妊娠中の活血生薬の安全性と流産予防治療の論文まとめ

\*晩婚化により、高齢出産での流産率の高さが課題となっている。西洋医学的治療で行われるホルモン療法と免疫治療では効果はあまり良くなく副作用があるが、漢方薬では良い効果を得ている。

\*活血生薬は妊娠禁忌薬として通常認識されているが、趙芸等<sup>[1]</sup>が腎虚と血瘀には因果関係にあると主張する。腎虚で血瘀を引き出す、血瘀で腎虚を悪化、従って治療には補腎と活血両方は同等に大切である。

### 一. 活血生薬の安全性

(1)妊娠中にも活血薬を使い、切迫流産が治るといい記載：

a. 《素問・六元正紀大論》「黄帝問曰：婦人重身，毒之何如？岐伯對曰：「有故無殞，亦無殞也。……大積大聚，其可犯也，衰其大半而止。過者死。」妊婦に毒の様な強い薬を使って如何か？その対応する病気があれば、胎児にも母体にも傷つかない。積聚(腹内部にある余計な出来物)なら強い薬で犯して、病が半ば以上改善したら止める。やり過ぎると死に至る。

b. 《傳青主女科歌括》「婦有失足跌損，致傷胎元，腹中疼痛，勢如將墮者人只知是外傷之為病也，誰知有内傷之故乎……必須大補氣血，而少加以行瘀之品，則瘀散胎安矣……方用救損安胎湯：当歸、(酒洗)生地(酒炒)各一两、白芍(酒炒)、蘇木(搗碎)各三錢、白朮(土炒)五錢、乳香(去油)沒藥、(去油)炙甘草、人參各一錢，水煎服，服一劑而疼痛止，二劑而勢不下墜矣，不必三劑也。此方之妙，妙在既能去瘀而不傷胎，又能補氣補血，而不凝滯……。妊婦が不意に転んで胎児に影響し、腹痛など切迫流産の傾向があるのは、ただの外傷ではなく、内傷もあり……必ず気血を補う他、少量の行瘀の薬を加えると安胎ができる。救損安胎湯は乳香と没薬という活血薬を入れており安胎でき、1日目で腹痛が止まり、2日目流産の勢いが減り、3日目は服用しなくていい。(中病即止)

c. 近代医家：劉平<sup>[2]</sup>が養血活血法で(基本処方：党参、沙参各9g、生地黄、熟地黄各9g、赤芍、白芍各10g、莪朮、白朮各10g、川牛膝10g、陳艾葉6g、川續断15g、阿膠9g、当歸10g)胎動不安、胎漏(切迫流産)を33名治療、総合有効率93.9%。

(2) 孫之迪等<sup>[3]</sup>が腎虚と血瘀の因果関係：腎陽虚では血液を推動する能力が低下、身体冷えて血液の流れが滞り、瘀血になる。血虚は瘀血を随伴、血が充足しているなら血行は良く、不足であれば血の流れは悪い。瘀血を除去しなければ、新血を生まない。

### 二. 流産予防の治療

(1)切迫流産は妊娠28週前に不正出血、下腹部痛或いは腰がだるいなどが主な自覚症状で、妊婦中の発生率20%、発生した妊婦の15~20%が自然流産となる<sup>[4]</sup>。24節気の中、雨水、

清明、立春に多発。

(2)病機

経絡：衝脈任脈損傷、胎元不固。胎元は胎気、胎児、胎盤から構成。

臓腑：腎虚・肝鬱・脾虚と考える<sup>[6]</sup>。

《素問・奇病論篇》「胞絡者繫於腎。」腎は先天の本、精を蔵し、生殖を主る。

《格致余論》「主疏泄者、肝也」。流産を繰り返し、心身に辛い負担がかかる事で肝鬱なりやすいため、疏肝理気の治療が大切。

《景岳全書》「凡胎孕不固，無非氣血損傷之病，盖氣虚則提摄不固，血虚則灌溉不周，所以多致小産。」流産の原因は気血不足で、気虚により固摂できず、血虚により栄養届かず、従って流産に至る事が多い。脾は気血生成の源で、脾虚の場合気血が生成されにくいので、安胎には健脾が肝心である。

(3)流産体質の弁証：許小鳳等<sup>[5]</sup>が 1315 名の早期切迫早産患者の臨床症状を分析したところ、腎気虚 52.8%、気血両虚 19.2%、陰虚血熱 13.6%、湿熱 9.7%、血熱 3.6%、血瘀 1.1%であった。

(4)習慣性流産の治療：

作者	処方			何名、治癒率
車芯、王燕等 [6]	補腎助孕方：菟絲子、女貞子、北沙参、山薬、代代花。			なし
連方 <sup>[7]</sup>	参耆寿胎丸：菟絲子、桑寄生、党参、黄耆、杜仲、続断各 15g、白芍、白朮、黄芩各 12g。			40名、87.5%
趙玉海 <sup>[8]</sup>	泰山磐石散：人参 3g、黄耆 6g、白朮 6g、炙甘草 2g、当归 3g、川芎 2g、芍薬 3g、熟地黄 3g、川続断 3g、糯米 6g、黄芩 3g、砂仁 1.5g。			104名、94.2%
周英、葉敦敏 [9]	寿胎丸合失笑散：桑寄生 15g、菟絲子 15g、続断 15g、阿膠 15g、蒲黄 6~10g、五靈脂 6~10g。連続 7~14日分服用。			20名、95%
蔣儉(李光荣 指導) <sup>[10]</sup>	タイプ	症状	生薬	41名、82.9% 有効
	気虚血瘀 (19名)	少量不正出血、色淡い暗い、血塊あり。 疲れ易い、小声・話億劫、顔暗い。 舌淡い暗い、胖大・歯痕あり、脈細滑無力。	黄耆、白朮、山薬、益母草、沢蘭、当归、鶏血藤、菟絲子、甘草。	

	気滞血瘀 (9名)	少量不正出血、色紫暗い、血塊あり、粘々。 胸脇苦満、イライラ、気が沈む。 舌紫暗い・瘀斑、脈沈弦滑。	柴胡、香附子、川芎、川玉金、芍薬、当帰、茯苓、山査子、甘草。
	寒邪血瘀 (6名)	少量不正出血、色暗い、血塊あり。 手足冷え、便溏、顔白い艶なし。 舌暗苔白膩・瘀点、脈沈弱滑。	桂枝、艾葉、紅花、川芎、当帰、蒲黄、白朮、甘草。
	熱邪血瘀 (7名)	不正出血、色鮮紅。 手足煩熱、口渇、便秘、尿黄。 舌赤、瘀点・瘀斑、脈滑数や細数	黄芩、生地黄、麦門冬、芍薬、丹参、益母草、山薬、甘草。
劉西川 <sup>[11]</sup>	腎虚：寿胎丸(菟絲子、桑寄生、続断、阿膠) 気血両虚：胎元飲(人参、当帰、杜仲、芍薬、熟地黄、白朮、甘草、陳皮) 血熱：保陰煎(生地黄、熟地黄、芍薬、山薬、続断、黄芩、黄柏、甘草) 打撲：聖愈湯(生地黄、熟地黄、川芎、当帰身、黄耆)		100名、76%

三. 結論：妊娠禁忌薬と言われる活血生薬は、妊娠中では弁証論治・中病即止で運用できたら、流産予防に役立つ、との結果であった。

#### 参照

- [1] 趙芸等, 活血以安胎. 光明中医 2012. 11(27):2206-2208
- [2] 劉平. 養血活血法治療胎動不安、胎漏 33 例 [J]. 湖南中医学院学报, 1994, 13(3):33
- [3] 孫之迪等. 活血化瘀在保胎方中的応用. 2016 全国中西結合婦産科研究進展學術暨 2016 年第一屆江浙沪中西醫結合婦産科高峰論壇論文及摘要集
- [4] 張碩等. 先兆流産の中医薬治療概況 中西醫結合研究 2018. 4(10):103-105
- [5] 許小鳳等. 探討早期先兆流産中医証型分布規律研究 [J]. 江蘇中医薬. 2015. 47(5):37-40
- [6] 車芯等. 中医治療復発性流産臨証思路. 中国中医薬信息雜誌 2020. 2(27):99-101
- [7] 連方等. 連方教授治療對外受精 - 胚胎移植後先兆流産 40 例經驗總結. 遼寧中医薬大学學報 2011(5):169-

- [8] 趙玉海等. 泰山磐石散加減治療先兆和習慣性流產 104 例總結. 雲南中醫雜誌 1985(6)
- [9] 周英等. 壽胎丸合失笑散治療腎虛血瘀型先兆流產的臨床療效觀察. 廣州中醫藥大學學報 2006. 1(23):25-28
- [10] 蔣儉等. 活血化癥治療血瘀型胎漏胎動不安滑胎 41 例臨床觀察. 中醫雜誌 1992. 11(20)670-672
- [11] 劉西川, 中醫辨證治療早期切迫流產的療效 [J]. 臨床醫藥文獻雜誌, 2016. 3(23), 4581-4582